

# 「休業中のICTを用いた取り組みの紹介③（高2情報）」

実施日：R2年3月9日

実施学年：高校2年生 情報 ※一部のクラス

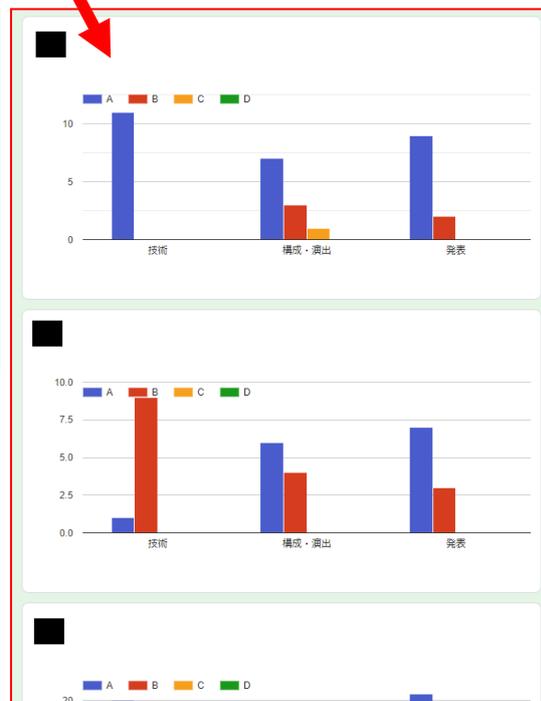
概要：この度の休業に関わり、ICTを用いた教科指導等の取り組みを行います。その一部をHPで紹介いたします。

詳細：教科情報では3学期にscratchというプログラミングソフトを用いた作品制作を行い、発表会を実施しましたが、今回の休業により、「相互の評価を確認し、自己の振り返りを行うという」まとめの授業ができなくなりました。そこで、Googleフォームを用いた相互評価の確認と振り返りの補習授業を行います。

相互評価の基準			
基準① 技術			
A	B	C	D
複数のプログラムが並列的に処理されたり、相互に関連付けて動いたりするような作品である。	1つの要素だけでなく、多少なりとも他の要素が変化するようなプログラムであった。	1つの要素がしっかりと動くプログラムが組み立てていた。	プログラムのアルゴリズムがおかしいと感じる点があった。
基準② 構成・演出			
A	B	C	D
起承転結、序破急、過去現在未来といった起伏が十分に感じられる作品であった。	少なくとも1部分は盛り上がる部分があり、場面転換を感じた。	唐突に変化する部分があったり、逆に一辺倒で変化を感じられなかった。	人間には早すぎる内容でまさにこれはクイズである。
基準③ 発表（説明の構成）			
A	B	C	D
作品のテーマや工夫した点、特に見てほしい点など複数のポイントを意識した発表で、内容を理解しやすかった。	ポイントを意識しているが、構成や表現等が悪く、理解しにくい点があった。	伝えようとする努力は感じるが、説明のポイントを意識しているようには感じられなかった。	自己表現をしようという意識が感じられなかった。

相互評価の観点と基準が確認できる

自分の作品はどう評価されたのか。また、クラスメイトの作品はどう評価されたのか。を客観的にとらえ、自身の学習を振り返ることで、更なる成長をもたらします。



自分の評価とクラスメイトの評価を確認できる